

光と緑の風通信

発行/2018年3月1日 編集/福島県立医科大学看護学部 〒960-1295 福島市光が丘1番地 Tel.024-547-1111 (代)

家族看護を臨床に生かして

看護学部長 畠山 とも子



ご卒業おめでとうございます。大変なことも多かったと思いますが、それらのことをむしろ糧にするように前向きに取り組まれた皆さんは素敵です。看護の現場に入っていくと苦しいこと、辛いこともたくさんありますが、ここで培ったガッツで乗り越えてください。実際看護はやってみると楽しいことが分かります。

私は学部長になってしまったので皆さんとは実習を共にすることができなかつたことがとても残念です。2年生の前期で〈家族の理解〉をやりました。“家族”というものの捉え方や皆さん自身の家族観や価値観を振り返って頂きました。全員が家族も看護の対象であることを学んでくださいました。後期は〈家族看護論〉で現場でよく見られる事例検討をして、その介入方法も学んでいただきました。今の医療の現場では、意思決定支援に看護師も参加することが求められます。実は正直に言うと私は何年か前までは、ほとんど実習もしていない皆さんに家族看護は難しいのではないかと考えていたのです。でも、家族看護学は新しい学問なので、学生のうちに教えておかなければ卒業してなかなか学ぶ機会がないだろうから仕方ないくらいの気持ちだったのです。ところが私の浅はかな予想に反し、ずっと修得が早く、アセスメントも実際の介入(ロールプレイ)も見事にやってのけましたね。患者と家族の意見が違うといった難しいケースへのかかわりなど見事でした。現場に出ると色々な患者さんやご家族、先輩や同僚に出会います。システム論的なものの見方はそこでもきつと役に立つと思います。

皆さんの活躍を期待しています。

(はたけやま ともこ)

修了のその先

看護学研究科長 後藤 あや



ご自分の研究の一番の発見は何でしょうか。その発見を、次の研究や臨床の場に、どのように活用する予定でしょうか。一緒に進む仲間は周りで見つけられたでしょうか。

限られた期間に1つの研究をはじめて考察までするのは容易ではありません。苦勞して集めたデータとじっくり向き合い、分析をして得られた結果だからこそ、その成果を土台にして今後の研究や臨床応用に結びつけていただきたいと思います。

修士論文にまとめた成果を、研究協力者・機関に報告されたでしょうか。そして、学会発表や論文投稿は予定されているでしょうか。研究は対象者や社会に還元できてこそ、意味あるものとなります。それだけでなく、もし集めたデータで分析が十分にできていない部分がありましたら、大事なデータですので、さらに分析を進めて次の論文作成をぜひ検討してください。

研究に終わりはなくて、1つ研究から得られた成果の還元をしているうちに、次の研究の構想がはじまります。研究の成果を臨床に応用したら、その効果検証が必要になります。修士課程修了後、その先の研究サイクルが上手く回り始めることを期待します。ご修了の皆様、おめでとうございます。

(ごとう あや)



在校生の皆さんへ

看護学部4年 戸田 愛実

大学に入学し4年間が経とうとしています。この4年間はとても大切な時間となり、少なからず成長できたのではないかと感じます。中でも実習は多くのことを学ぶ機会となりました。専門的な内容が学べるため楽しさもありつつ、つらく苦しく自分に自信がなくなる時もありました。そんな時は苦しさを共有できる仲間と支えあい乗り越えてきました。

また、初心を忘れず、何のためにこの道に進んできたのかを考えると力が湧いてきました。つらく苦しい時も患者様の力になり

たいという思いさえ見失わず、一生懸命頑張っている患者様から暖かい言葉をいただいたことがあり、心から嬉しくなりました。在校生の皆さんも、仲間を大切に、自分なりの原動力で頑張りすぎず、前へ進んでほしいと思います。

やり抜く力

大学院看護学研究科2年 菅野 範子

「看護研究の授業で、看護研究を行う際に必要なことは知力、実践力、表現力と学びました。しかし修士論文作成はこの3つでは説明できないことがありました。私は研究計画書作成が思うように進まず困難な状況に陥りました。研究実施の際には、データ収集出発直前に北朝鮮のミサイル発射で足止めをくう等、想定外の有害事象が多数発生しました。そんな中、「GRIDやり抜く力」という本に出会いました。それによると、大きな成果を出した人の多くは必ずしも才能に恵まれていたわけではない。成功するために大切なのは、優れた資質より

も「情熱」と「粘り強さ」すなわち「グリット」であると主張し、インタビュー等の調査で明らかにしていました。

私は大学院をなんとか修了しますが、これは先生方や大学院生の皆さんのご支援の他にグリッドが少なからずあったからだと考えました。修士課程では大なり小なり困難にぶつかります。自分は未熟だ、劣っている、できない等否定的な感情にとらわれることがあります。粘り強く前へ進むことを願います。

(かんの のりこ)



ご卒業

おめでとうございます。

看護学部3年 柘植 脩成

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの卒業があつという間だっただけに、私達在校生にとっては寂しい気持ちです。先陣方は私達3年生にとつて一つしか学年が変わらないため、一番長く時間を過ごした身近な存在でした。まだまだ大学に慣れない私達に親切に接してください。

親切に接してください。優しく教えてくださったりした先陣方も、勉強や部活になる何事にも一生懸命に取り組む姿勢が印象的で、そんなかつこいい先陣方に憧れた後輩も多

いのではないのでしょうか。在学生にとつても頼りがいのある自慢の先輩方です。4月から新しい環境で楽しみもある反面、きつと不安もあるのではないかと思います。その時はきつと、福島医大で過ごした時間があなたを助けてくれるはずですよ。自信を持って思い切り楽しんでください。

どんな地でも、「行動」という種をまいて「努力」という水をあげれば必ず花は咲くのです。先輩方はどんな綺麗な花を咲かせるのでしょうか。在学生一同、先輩方のご活躍を楽しみにしています。

(つげ しゅうせい)



大学院を修了される皆様へ

大学院看護学研究科1年 安保 淳子

修士課程修了おめでとうございます。皆様は今、どのようなお気持ちでこの時を迎えられていますか。私には、先輩方の姿がとても輝いて見えます。

先陣方には、数分の時間も貴重なはずなのに、気さくに声をかけて下さり、何度も話を聞いていただきました。資料を貸していただき、差し入れをいただき、凍結しそうな思考回路にアドバイスをいただけて、頭の中に光がさしたような時もありました。悩みや迷いを打ち明けた時も、自らのエピソードを話して下さい、どんなに励まされたかわかり

今、寂しさを感じずにはいられません。明日は我が身と不安を感じながらも、希望をもつて前へ進めるのは、先輩方の歩んでこられた軌跡があるからこそです。ありがとうございます。最後に、皆様の更なるご活躍を心よりお祈り申し上げ、贈る言葉と致します。

(あほ じゅんこ)



実践を通しての学び

看護の対象となる人々を理解する実習

看護の対象となる人々を理解する実習

人々を理解する実習で学んだこと



看護学部1年 阿部 夏海

初めは思うようにいかず苦しかった実習も、最後はとても楽しく、自然に笑顔が

あふれてくる、そんな四日間でした。この実習を通して、相手の話に耳を傾け、二つ二つの言動からその人の思いや不安をくみ取ろうとすることができるようになりました。初めは理解できなかった言動も、利用者さんの思いに寄り添い、生活歴や性格などを捉えることで、気持ちがかん

たかできるようになりました。そして、一番強く心で感じたのは、笑顔で接することの大切さと、笑顔になってもいい、明るくなつてほしいという気持ち。相手は相手という事です。看護技術も未熟な中の実習でしたが技術以前にもっと大切なことがあると知ることができました。これからの経験を忘れず、努力していきたいです。

(あべ なつみ)



患者さんを理解すること

看護学部2年 横田 美織

基礎看護学実習1では、入院が生活に及ぼす影響に着目しながら患者さん

を見させていただけでなく、患者さん

を理解するためには、その方の入院前の生活を知ることが大切だと感じた。

今回は初めての病院実習であった。実際に患者さんを受け持たせていただき、血圧測定や足浴などを行い、多くのことを学ばせていただいた。今回の学びを活かし、これからの実習でも入院による心身の影響や入院前の生活を考えながら患者さんに関わっていききたい。

(よこた みおり)



地域を理解する実習で学んだこと

看護学部2年 奥野 瑠華

わたしは今回地元である相双地区での実習を希望しました。実習の目的は、健康指標や統計資料などを統合し、地域の特徴や地域の健康課題に対する認識・態度を把握すること、保健師活動がどのよ

うに展開されているのかを知ることです。その地域に行き住民の方々にインタビューをすることで、実際の地域の方の生活環境や健康についての認識を見ることができました。

また、震災後の現状について被

(おくの るか)



高齢者への看護学実習での学び

看護学部4年 湯田 若菜

私は高齢者への看護学実習を通して、これまでの生活背景を尊重し、その人らしい生活を支えることがQOLの維持・向上への看護につながることを学びました。

助を実施し小さな表情の変化を感じることができ、患者を少しずつ理解することができました。「患者の思い」は私の予測ではありませんが、声で訴えることはできなくとも何かを発信しようとしていることを感じました。

高齢者は加齢変化に加えて、疾患や障害により様々な健康問題を抱えており、そして個々の長い人生の歴史を背負っています。自ら意思を示すことが難しい終末期の高齢者に対し、私ははじめ、その人らしく生きるための看護とは何か悩みました。しかし、生活リズムを整える援

ていいるのは、健康相談時の保健師の関わりです。保健師は住民の話丁寧



地域における看護学実習で学んだこと

看護学部4年 安藤 文香

私は猪苗代町で実習をさせて

また改善すべきことは対象と一緒に考えるという姿勢で関わっていました。保健師は個人から地域全体を対象としています。今回の実習での学びを生かして、住民との関わりを大切に、住民の声やニーズを反映した活動ができる保健師を目指していきたいと思

の維持・増進に繋がっていることを学びました。実習で特に印象に残

(あんど う ふみか)



卒業生近況報告

私は医大を卒業して5年が経ちました。1年あまり看護師として病棟勤務、その後保健所保健師となり2年半を感染症、半年の精神保健を経て、現在南会津保健福祉事務所教育・研修を含めた全体の調整と管



卒後5年が経って感じたこと

保健師 湯田 智仁

内の健康づくりの支援を行っています。この5年間で4回も担当する業務が変わるなんて思いもしませんでした。その分様々な経験をすることができました。5年間看護職として様々な場面・



立場に立ち住民と関わってきましたが、経験した業務が増えるたびに新たな側面から人や物事を見られるようになったと感じています。たくさんの方の視点から物事を見られるということは、その対象によりよい看護が提供できるといえると思います。みなさんが日々学んだり実習で体験することは必ず自分自身の糧となるので、失敗を恐れずどんどんチャレンジしてください。(ゆだ ともひと)

医大を卒業してから8年が経ちました。卒業後、福島市内の病院で助産師として働いていました。昨年、福島県立医科大学の大学院に入学し、現在は母性看護を専攻しています。



近況報告

助産師 鈴木 愛 (旧姓：八巻)

臨床では妊娠・分娩・産褥、思春期など多くの方と出会い、その方々から学んだことは貴重な経験となっています。地域で生活している母子やこれから子育てをする方によりよい支援をすることができるよう助産師と



して成長したいと考えています。卒業してから年月は経ちますが、講義や実習で学んだことは助産師として働いている時も現在も私の基礎となっています。また、医大で出会った先生方や友人には今も支えられています。学生としての時間を大切に頑張ってください。(すずき あい)

私は6期生で同期は精神看護学の田村先生です。卒業後、福島医大附属病院に就職し、看護師になって11年目になります。現在は整形外科病棟で働いており、病棟の中では実



在校生へのエール

看護師 小林 浩之

習指導者として、日々学生さんから様々な事を学ばせてもらっています。私の学生時代は、バスケの練習のために大学に行っていたようなもので、講義も出ずに勉学を疎かにしていま



した。なので、こんな私が現在看護師、実習指導者をしていて、こと自体が奇妙なものです。今思うことは、学生時代の講義の時間をもっと大切にしておけば良かったということ。現在ですが、特に就職した当初大変苦労しました。学生でいられる時間を大切に、多くの事を学んでほしいと思います。(こばやし ひろゆき)



実習を通しての学び

急性期にある人への看護学実習を通しての学び



看護学部3年 有賀 奈緒

急性期では展開がとて速く、術後は侵襲を受けた体が日々回復していきます。受け持った患者さんは創部の痛みが強く、負担を減らすために手短かにバイタルサインを測定し、その間に表情や創部の状態などの変化を観察していきました。また、近年は入院期間が短くなる傾向にあり、受け持った患者さんも入院から2週間で退院となりました。術後、多くの機器につながれ痛みの訴えもあつた患者さんが翌週には退院することとなりとても早いと感じましたが、それ以上に患者さんの不安は大きかったと思います。実習では、患者さんの日常生活について情報収集し、自宅に戻っても安心して生活しているように指導していきました。

(ありが なお)



母性看護学実習

看護学部3年 富樫 美和

母性看護学実習は、妊娠期から産褥期にかけて、母親とその新生児を対象に行っていた。妊娠期では、安全な分娩となるように、助産師が丁寧に妊婦と胎児の診察を行い、個別性のある保健指導を行う様子を学ぶことができた。分娩期では、実際に分娩経過とそれぞれの経過におけるケアを学んだ。産褥期では、母体性・進行性変化の実際の観察の仕方を学び、産褥日数と照らし合わせた



精神の健康障害をもつ人への看護学実習で学んだこと

看護学部3年 加藤 修人

精神看護学実習では閉鎖病棟や保護室といった精神疾患特有の施設を目にすることができ、他領域との違いを感じる事ができました。その中で特に私が学んだことは、看護者は対象の行動に関心をもち続けることで対象を理解し、精神疾患が対象の生活にいかの影響をもたらしているかを考えることが大切であるということ。精神の領域では「セルフケア」という視点で対象を観察し、援助を考えます。実習中、対象がセルフケ

(かとう しゅうと)



小児看護学実習を通しての学び

看護学部3年 渡辺 美紀

私は、1歳女児と9歳男児の2人の患児を、退院まで受け持つことができた。この2例の子どもと家族との関わりの中で、子どもの気持ちの表現方法は様々であり、言葉を話せるかどうかに関わらず話し方や接し方一つに意味があるのだと思つた。大人が思っている以上に子どもは多くのことを感じ考えていて、様々な刺激から影響を受けていることを学んだ。また、子どもも家族も考え方や気持ち、症状は日々変化して

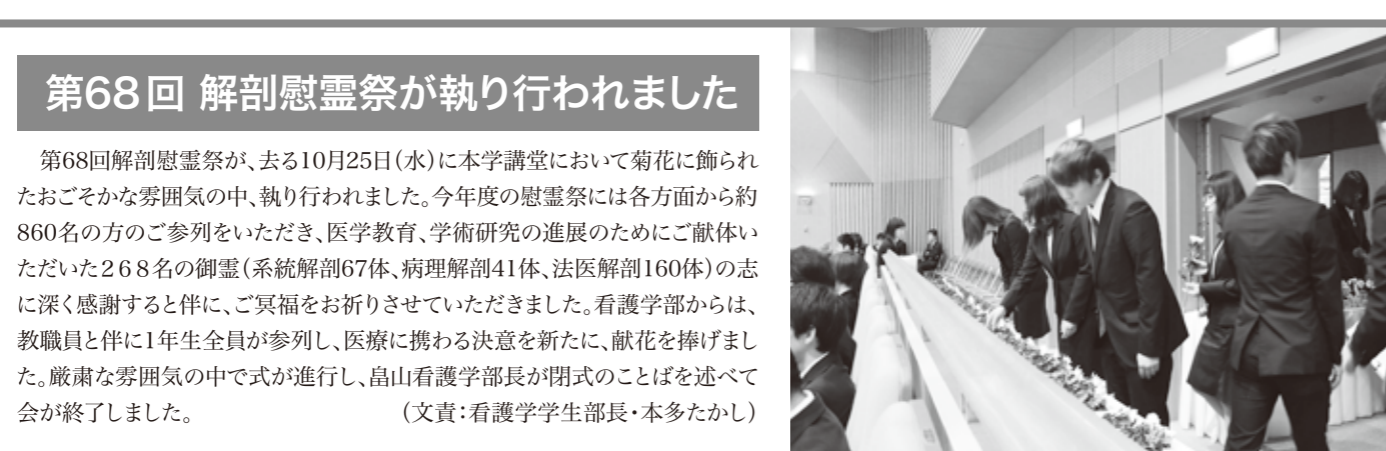


慢性実習での学び

看護学部3年 穴沢 瑞葵

今回の実習は私にとって、その人にとつての一番とは何かと個性を考える良い機会となりました。看護師には専門職としてやらなければいけないことがあります。しかし一人一人の方に長い間信じてきたもの、続けてきたものがあり、さらには長い闘病の中で揺れる複雑な気持ちを抱えています。今回は、それを理解し、対象の方とともに考え、選択していくことの大切さと難しさを学ぶことができました。また、

(あなざわ みずき)



第68回 解剖慰霊祭が執り行われました

第68回解剖慰霊祭が、去る10月25日(水)に本学講堂において菊花に飾られたおごそかな雰囲気の中、執り行われました。今年度の慰霊祭には各方面から約860名の方のご参列をいただき、医学教育、学術研究の進展のためにご献体いただいた268名の御霊(系統解剖67体、病理解剖41体、法理解剖160体)の志に深く感謝すると共に、ご冥福をお祈りさせていただきました。看護学部からは、教職員と共に1年生全員が参列し、医療に携わる決意を新たに、献花を捧げました。厳粛な雰囲気の中で式が進行し、島山看護学部長が閉式のことは述べて会が終了しました。(文責:看護学学生部長・本多たかし)

第7回 福島医大 光翔祭

2017.10.14(土)・15(日)

光翔祭を終えて

光翔祭実行委員 佐竹 瑞穂



10月14日と15日の2日間にかけて光翔祭が行われました。今年度の学祭は、2年に一度の一般公開ということもあり、実行委員会、部活動やサークルでは、春ごろから着々と準備をすすめて参りました。そして、学祭当日は学生だけでなく、地域の幅広い年代の方々も大勢おいでになり、大成功を収めることができました。

今回の学祭のテーマは「十人一色」でした。学祭準備、発表部門や部活動などを通して、看護学と医学の垣根を超えて、総括し学ぶことの大切さや面白さを知ることができました。まさに

「十人一色」となることも必要だと知りました。今回の学祭を通じて学んだことを生かし、時には十人一色となり、これからの学校を盛り上げていきたいと思えます。
(さたけみずほ)

CALENDAR

看護学部 カレンダー

◎3月21日(水)◎

学位記授与式

◎4月2日(月)◎

在学生
オリエンテーション

◎4月4日(水)◎

入学式

◎4月4日(水)～5日(木)◎

新入生
オリエンテーション

◎6月18日(月)◎

開学記念日

◎7月8日(日)◎

オープンキャンパス

◎10月13日(土)◎

光が丘祭(予定)

看護学部FD委員会



FD研修会

平成29年12月7日

「授業デザインと シラバス作成」をテーマに、 平成29年度 第2回FD研修会を 開催しました



近年、一定の臨床経験を積まれた看護学部卒業生の皆さんが母校に戻り、教員として後進の指導に当たるケースが増えてきました。

しかし、こうした若い先生方を中心に、そもそも授業をどのように構想したらよいのか、臨床の経験知を反映させるうまい方法はないか、それをシラバスにまとめていくにはどうしたらよいのか等、悩みがつきないとの声が間々聞こえてきます。

看護について学ぶ機会はありませんが、教員としてのトレーニングを積む機会が乏しく、こうした壁にぶつかってしまっています。少しでもこうした状況を改善していければとの思いで、串本剛先生(東北大学高度教養教育・学生支援機構准教授)のご指導の下、3月にも統編を開催いたします。

(文責・立柳 聡)

編集後記

この看護学部ニュース・レター「光と緑の風通信」もおかげさまで第54号を迎えました。

看護学部では、この3月に17期生が卒業し、県内各地、そして全国へと巣立ちます。卒業生の医療人としての旅立ちはこの福島県立医科大学からはじまります。幕末の思想家吉田松陰は、「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし。」という名言を残しています。学生の皆さんが本学で学んだことを誇りに持ち、大いに夢を語り、実践することにより、福島県民を始めとする人々の健康に対して広く貢献し活躍されることを期待しています。

最後に、お忙しい中寄稿していただきました皆様に深く感謝申し上げます。
齋藤 史子

編集委員

本多たかし
横山 郁美
田中 啓子
田村 達弥
森 美由紀
古澤 香織
秦 暁子
齋藤 史子